

【シラバス作成に関するガイドライン】

本ガイドラインは、本校のシラバス作成に関する基本的な考え方を示すものであり学生がその内容を理解し、学習の見通しを立てられるよう具体的かつ簡潔な記述とする。

◆各項目の記載内容・記載方法等

以下の（１）、（２）に関しては原紙に教科番号を記入すると自動で入力されます。

（１） 授業科目の基礎情報について以下８点を記入する。

- ①教科名
- ②教科番号
- ③対象学科
- ④コース名
- ⑤対象学年
- ⑥単位数
- ⑦授業形態

講義（レクチャー）

学生が教員から説明を聞き・考え・対話することで専門的な知識を学ぶ

学習方法

- 教材などを用いた対面授業

演習（エクササイズ）

実際のことを模擬的に体験、経験、練習し学生が主体的に学ぶ学習方法

- グループワークなどの学生が主体的に学びあう授業
- 検定対策授業など

実験・実習・実技（トレーニング）

講義や演習で学んだことを基に、その準備などの全過程を直接的に体験・経験し学ぶ学習方法

- 校内設備を用いた実技の授業
- 医療機関や関係施設など、現場での体験・経験を有する授業

⑧必修/選択の別

(2) 担当教員の情報を以下2点記入する。

①教員名

②授業内容と教員の実務経験の関連性

→予め各担当の先生方の情報をこちらで作成してあります。

情報に誤りがあった場合や変更が必要な場合は、訂正シート

(エクセルのシラバス原紙につけておきます)にご記入をお願いします。

(3) 授業概要

授業の全体像が把握できるように授業概要を記載する。学生に分かりやすいように、具体的に目的や手段、内容を記載していく。

「〇〇の為に〇〇や〇〇などを学ぶ」

(4) 到達目標

その授業を履修後に最低限身につけるべき能力を示します。学生自身が授業を通して「こんなことができるようになる」「こんな知識が身につく」「こんな技術が身につく」ということがイメージし易いような内容にしてください。

※シラバスの到達目標に、検定合格を含めないでください。

→到達目標は最低限達成して欲しい内容を記載するため、検定合格をここに記載してしまうと、合格できなかった学生は「達成目標に達しなかった」とみなされ、評価がつかない状況がうまれるため。

作成時のポイント

①主語は学生

(良い例：主語が学生)

- ・「〇〇について学び〇〇が説明できるようになる。」

(良くない例：主語が教員)

- ・「〇〇について理解を深めるため〇〇を説明する。」

②1文は80字程度の箇条書きにし、点(・)や通し番号(1、2)を用いる。

③なるべく具体的な表現で書く

- ・「〇〇を通して実践的な力を身につける」→「実践的な力」とは「何」を示しているのかもう一段階具体的に書く
- ・「〇〇の基本を説明することができる」→「基本」とは「何」を示しているのかもう一段階具体的に書く

(例)

- ・「表計算ソフトで四則計算式が作成できる」

(5) 教材名

学生が使用するテキストや、参考文献として教員が使用しているテキストを記載する。教科書を使用する場合は、書名、著者名、出版社を明記する。

※教材が無い場合はプリント配布などと記入する。

また授業で使用する教材や教具がある場合も記載する。

(6) 資格の取得目標

前述のとおり、シラバスにおいて到達目標に検定合格は含めない。そのため授業を通して検定対策を行い、検定取得を目標に掲げる場合は「検定名」を記載する。

(7) 履修にあたっての留意点

受講にあたり、予習復習、学生へ望む事、授業中の態度や注意点などを記載する。具体的には、「到達目標」を達成するために、**授業時間以外に行わせる、予習・復習・課題・試験勉強などについて、明記する。**

※遅刻に関しては、原則授業開始20分以降の遅刻は欠席扱いとなります。

(8) 成績評価（成績評価の方法、評価配分の割合）

成績評価基準を5項目（以下表①）としています。5項目の中から担当科目に適応する評価基準を設定してください。どの評価項目を選択するか、割合はどうするか等は各担当者が決定するものとします。割合の合計は100%とし、統一のルールとして「出席状況」は全ての科目で必ず20%～50%の割合を設定してください。記入の際はリストボタンから選択し20%からの5%刻みとなっています。

表①

評価基準	I 試験・検定	II 提出物	III 授業態度	IV 出席状況	V 外部評価
------	---------	--------	----------	---------	--------

(9) 授業計画

①授業回数は今年度カリキュラム表を参照し記入

②講義内容についてはキーワードを交えながら分かりやすく簡潔に記入する。

(10) 学科名・コース名について

《学科名》	《コース名》	《呼称》
高度情報デザイン科	大学併修コース	A 1
A I システム科	A I エンジニアコース	A 2
情報システム科	システム開発コース	S 1
	ゲームクリエイターコース	S 2
	プロダクトデザイナー・CADコース	S 3
	ビジュアルデザイナーコース	S 4
情報ビジネス科	情報ビジネスコース	B 1
	保健・医療ビジネスコース	B 2
I T 総合研究科	I T 総合研究コース	I T
国際 I T ビジネス科	国際 I T ビジネスコース	G B

以上